

平成29年度 第67回夏休み良書推薦運動

読書感想文コンクール表彰式

平成29年 10月 7日(土)
サンセール盛岡

主催 岩手県良書推進協議会
協賛 岩手県学校生活協同組合
後援 岩手県小学校長会
岩手県学校図書館協議会
岩手県PTA連合会

平成29年度 第67回

夏休み良書推薦運動読書感想文コンクール

入賞者名簿

「」は図書名

〈最優秀賞〉

えがおになるばんけーき

『ルルとララのアロハーパーンケーキ』

大船渡市立日頃市小学校 一年 木下 優奈

空となかよしに

『あしたのてんきははれくもりっあめ?』

雫石町立七ツ森小学校 二年 米倉 ゆず

夢をかなえるために

『ヒミツの子ねこ』

宮古市立山口小学校 三年 濱田 未来

ゆめの自動はん売機

『まほうのじどうはんばいき』

盛岡市立土淵小学校 四年 吉田 歩

とどけ!メッセージ

『劇団6年2組』

滝沢市立鶴飼小学校 五年 赤坂 祐生

晴れた朝を迎えるために

『晴れた朝それとも雨の夜』

宮古市立田老第三小学校 六年 畠山 芽依

〈岩手県小学校長会長賞〉

あつたかハートのカステラやさん 『おかのうえのカステラやさん』

盛岡市立桜城小学校 二年 薄衣 輪

つなみてんでんこの教え

『ぼくらの津波でんでんこ』

大船渡市立日頃市小学校 三年 近江 由楽

ありがとう

『天国の犬ものがたり』

大船渡市立日頃市小学校 六年 新沼 瑠衣

〈岩手県学校図書館協議会長賞〉

すてきな気もち

『ルルとララのアロハーパーンケーキ』

一関市立南小学校 二年 佐々木 琴珂

『ぼくらの津波でんでんこ』を讀んで 『ぼくらの津波でんでんこ』

盛岡市立百合学園小学校 四年 福士 央華

十二星座のひみつ

『12星座とギリシャ神話の絵本』

宮古市立田老第三小学校 五年 畠山 大輝

〈岩手県PTA連合会長賞〉

つよいきもちでがんばる

『まほうのじどうはんばいき』

大船渡市立日頃市小学校 一年 山下 春 駈

森を大切にすることは

『もりもりさまの森』

宮古市立山口小学校 三年 小笠原 みらい

達成感を味わうために

『劇団6年2組』

宮古市立崎山小学校 六年 村上 依 咲

〈優秀賞〉

おもちゃをたいせつにする

『かわいがってくれるの、だあれ？』

大船渡市立日頃市小学校 一年 村上 琉 夏

ぬいぐるみの気持ち

『かわいがってくれるの、だあれ？』

雫石町立七ツ森小学校 二年 菊池 日 葵

ぼうさいについてよく考えたこと

『ぼくらの津波でんこん』

大船渡市立日頃市小学校 三年 新 沼 慎一郎

『もりもりさまの森』を読んで

『もりもりさまの森』

宮古市立千徳小学校 四年 安原 掬 乃

すてきなクラスにするため

『劇団6年2組』

宮古市立山口小学校 五年 山口 梨乃花

仲間と乗り越える

『劇団6年2組』

陸前高田市立気仙小学校 六年 菅 野 いぶき

〈入選〉

まほうのことば「アロハ」

『ルルとララのアロハ！パンケーキ』

岩手大学教育学部附属小学校 一年 佐藤 李 虹

空の天気よほう

『あしたのてんきはれっくもりっあめ？』

一戸町立奥中山小学校 二年 戸来 壮 佑

あしたのてんきはれっくもりっあめ？

『あしたのてんきはれっくもりっあめ？』

滝沢市立滝沢第二小学校 二年 熊谷 花 菜

自ぜんを守るために出来ること

『もりもりさまの森』

久慈市立宇部小学校 三年 滝澤 光 来

時をこえちやうがつき

『学校の鏡は秘密のとびら？』

宮古市立山口小学校 四年 川戸 綾 乃

仲間の大切さ

『怪盗ルパン 謎の旅行者』

花巻市立宮野目小学校 五年 小川 日 菜 子

人はなぜいじわるをするのか

『人がいじわるをする理由はなに？』

盛岡市立仙北小学校 六年 駒林 貴 葉

〈学校賞〉

大船渡市立日頃市小学校

〈学級賞〉

栗石町立七ツ森小学校

宮古市立田老第三小学校

大船渡市立日頃市小学校

大船渡市立日頃市小学校

大船渡市立日頃市小学校

二年

五・六年

二年

五年

六年

《佳作》

えだまめきようだいをよんで

『えだまめきようだい』

大船渡市立日頃市小学校

一年 新沼 我空

おしりたんていになった気分

『おしりたんてい』

盛岡市立永井小学校

二年 兼平 姫那

ルルとララのアロハバンケーキを読んで

『ルルとララのアロハバンケーキ』

盛岡市立高松小学校

二年 佐々木 美優

やさしいやさしいおんがえし

『おかうえのかステラやさん』

雫石町立七ツ森小学校

二年 細川 栞那

自然とともに生きよう

『もりもりさまの森』

宮古市立山口小学校

三年 島野 咲

いじめってなんだろう？

『人がいじわるをする理由はなに？』

二戸市立石切所小学校

四年 佐野 柚乃

ルパンから教えてもらったこと

『怪盗ルパン 謎の旅行者』

宮古市立田老第三小学校

五年 館崎 太一

チャレンジ

『劇団6年2組』

宮古市立崎山小学校

六年 佐々木 優楽

「考える自由を守る」とは

『人がいじわるをする理由はなに？』

宮古市立田老第三小学校 六年 畠山 瑛成

一年 最優秀賞

えがおになるばんけーき

大船渡市立日頃市小学校 一年

きのした ゆうな

わたしは、あんびるやすこさんの、「るるとらのあろはばんけーき」をよみました。このほんをえらんだわけは、ばんけーきがすごくおいしそうだったからです。

わたしがここにのこったのは、はわいにかえりたくなった、のねずみのおじいちゃんに、るるとらがあるはばんけーきをつくってあげるところです。おじいちゃんが、ばんけーきをたべて、あろはなきもちになって、よかったなとおもいました。

それから、るるとらがねずみのおじいちゃんのはわいをかんじられるように、はわいのどれすをきることにして、わくわくしているばめんは、わたしもるるとらになったみたいで、たのしいきもちになりました。そして、るるとらはのねずみのおじいちゃんのはなしをきいて、すぐにこなつつそーすをつくりました。わたしは、ほんをみないとおかしをつくるのができないので、るるとらみたいになりたいなとおもいました。

ほんをよんだあとに、わたしもおかあさんといっしょにくつきーやぜりーをつくってみました。かぞくみんなに

たべてもらったら、

「おいしい。」

といってもらえました。とてもうれしかったです。おかしをつくると、みんながえがおになるんだなとおもいました。

おはなしにでてくる「あろは」には、こんにちは、さよなら、ありがとうとかいろんないみがこめられているということがわかりました。あろはってすてきなことばだなとおもいました。わたしはこれからも、おかしをつくったり、ともだちやかぞくにやさしくしたりして、まわりのみんなにあろはのきもちをつたえたいです。

（図書名「ルルとララのアロハ！パンケーキ」）

〈講評〉

優奈さんは、本を読んですぐにお話の中に出てくるコナツツソースを作ってみたんですね。そのような様子から、優奈さんは、読むだけではな読書の楽しさを教えてくれました。アロハの意味をよく考え、自分もアロハな気持ちをつたえていきたいというところからは、優奈さんの優しさを感じました。自分が感じたことや考えたことを、素直な言葉で表現しているところが、とてもすばらしいと思いました。

空となかよしに

零石町立セツ森小学校 二年

よねくら ゆず

このごろ、大雨になったり、晴れになったりと、ころころ天気かわります。

この前、体いくの時間に大きなプールに入ろうとしたら、きゅうに雨がザーザーふってきました。だから、わたしは空を見て、

「空のいじわる！」

とさげんでしまいました。

でも、この本を読むと、空はきゅうにいじわるをしたわけではないということに気がきました。くもやお日さま、風のむきをよく見れば、天気が分かるということです。

たとえば、「うろこぐもが広がると雨」という天気をよそうする言いつたえがあるそうです。風のむきがかわってできるうろこぐもなので、やがて、天気もかわって雨になることをはじめて知りました。

わたしは、びっくりしました。空はくもをつかつて、わたしたちに天気を教えてくれていたのです。

ほかに、「わたぐものはらがそろくと晴れ」、「かさぐもは風と雨」などの言いつたえもありました。くもは、い

ろいろなしゅるいがあって、とてもおもしろいです。もっともっと、くもについてしらべてみたくなりました。

また、くもだけでなく、ほし空を見て、天気をよそうできることも分かりました。今まで、ほしがちかちか光るのはなぜか、ふしぎでたまりませんでした。だから、りゅうが分かって、すっきりしました。これなら、よる、ほしを見て、明日の天気もよそうできそうです。

空は、たくさんのかんことをわたしたちに教えてくれます。これから、空のかんことをまい日して、空となかよしになりたいです。そして、天気よほうをみんなの前でして、ともだちをびっくりさせます。きつと、明日から、天気よほうの名人と言われるかもしれません。

（図書名「あしたのてんきはれ？くもり？あめ？」）

〈講評〉

初めが工夫されていて、ゆずさんの体験したことが、本の内容とどのようにつながっていくのだらうと、すぐに引き付けられました。また、題名や「空は、たくさんのかんことをわたしたちに教えてくれます」という文から、空に親しみを感じながら読み進めていたことがよく分かりました。空を友達のように感じ、毎日空を見上げているゆずさんなら、天気予報名人に必ずなれます。新しい発見を大いに期待しています。

三年 最優秀賞

夢をかなえるために

宮古市立山口小学校 三年

濱田 未来

「ぼくは帰らないよ。だけど心配しないで。魔法を使えばいいさ。学校では、ぼくはジェマにしか見えないよ。」

これがわたしの心にのこった子ねこにへんしんしたライオン王国の王子「フレーム」の言葉です。

この物語は、ジェマという女の子が、魔法を使えるふしぎな子ねこ「フレーム」にたすけられながら、ダンスのオーディションを受けて夢をかなえていく話です。

フレームのすがたは、ジェマにしか見えません。声もジェマにしか聞こえません。オーディションにはお金持ちのフランもいっしょに受けます。同じ女の子なのに、フレームはなぜジェマをえらんだのか考えました。それは、毎日がんばるジェマのすがたを見ていたからだだと思います。ジェマは、お母さんの手伝いや弟たちのめんどうもみていたのです。わたしはジェマのようにオーディションに合格するまでがんばることはできないと思います。でも三年生になつてがんばっていることがあります。それは、そうじのときに、すみずみまできれいにするようにと力していることです。ぞうきん係だったら、ふだんはあまりふかないドアのレールをこみがなくなるまできれいにふいています。ほうき係だったら、ぞうきんの人たちにこみをのこさないようにしていねいにはいています。先生に言われなくても、たてわりはんのみんなが毎日一生けんめいそうじを続けていけば、フレームがジェマに魔法をかけてくれたように、学校で取り組んでいる「がんばりカード」がたくさんもらえるかもしれ

ません。

「いい知らせ」とさいごに書いてあったので、きつとジェマはオーディションに合格したのだと思います。フレームとのわかれはつらかったけど、一番の目ひょうをたつせいでできたのはよかったと思います。でもわたしは、ジェマに言いたいことがあります。オーディションの直前はだれもが不安になります。でも「やっぱりでできない」と思わずに、小さなミスをしてささいなことであきらめずに歌ってほしいです。お母さんたちは、どんなにしつぱいしようと、一生けんめい歌っておどればそれでいいと言ってくれるはずですよ。

この本がわたしたちにつたえようとしていることは、魔法が使えるねこは本当はいないので、たすけをかりずに強い心をもって、夢にむかうことだと思います。

わたしの夢はパティシエールです。わたしが作ったマカロンを食べた人がハッピーで、落ちつく気持ちになれるような物を作りたいです。今は図書館で、おやつ作りの本をかりたり、家でゼリーやバナナケーキを作ったりしています。でも、それだけではパティシエールになれるはずがありません。どの国のさいうりやうがおいしいのか、くふうした作り方はどの国のものを調べていきたいです。

(図書名「ヒミツの子ねこ」)

〈講評〉

本の主人公に、たくさん話しかけながら読み進めることができました。

未来さんは、夢をかなえるために向かってがんばる主人公に応援しながら、一方では、「言いたいことがあります」と、アドバイスもしていますね。これは、未来さんと主人公がとってもよい関係ができているからです。

夢をかなえるためには、「魔法」の一言で終わらせず、実際にどんなことをしていけばいいのか、しっかりと考えて書いていっているところ、すばらしいです。

四年 最優秀賞

ゆめの自動はん売機

盛岡市立土淵小学校 四年

吉田 歩

もしも、ぼくがこのまほうの自動はん売機を見つけたら、「へんな自動はん売機だなあ。」と思うだろう。近づいて見たりするだろうか。小さな文字で「あなたのみかた」なんて書いてあっても気づかないかも知れない。気づいたとしても、ふ思議でぶ気味で、一人でボタンをおしに行くなんてことはできないと思う。主人公のこへいはお母に相談していたけれど、ぼくのお母さんも同じでぼくの言うことなんて気にもとめないだろう。だから、どうしても気になってボタンをおしてみたくなくなったら、まずは弟を連れて行ってボタンをおさせてみると思う。

本当にまほうの自動はん売機があるなら、ぼくはゲーム機やゲームソフト、お金が出てほしい。でも、この自動はん売機は「あなたのみかた」と書いてあるだけで、何が出るかわからない。こへいには最初、カブトムシが出た。これは、前からほしかったものだった。次の日には、算数のドリルが出てきた。テストの点数が悪かったからだ。ほしかったものが出るのはうれしけれど、ドリルが出てきたらがっかりする。体育のテストで二重とびが楽しくとべるなわとびが出たり、公園の帰りにはジュースが出た。お母さんにおこられたときには、ぞうきんとお母さんの好きなチョコプレートが出てきた。自分がほしいと思ったものだけでなく、すぐに役立つ必要なものがボタンをおすだけで勝手に出てきてくれる。何てべんりな自動はん売機だろう。こまいったことが起きたら、ボタンをおすだけでお助けアイテムが出てくるのだ。ドラえもんのかばんみたい

だ。

友達のおとと二人でボタンをおしたとき、こへいには最新のゲーム機、おととには明日発売のまんががざっしが出てきた。

「ゆめみだ。」

と、なおとが言った。本当にゆめのようだ。でも、ほしいものが簡単に手に入ったら、世の中はどうなってしまうだろう。店がつぶれるし、だれもはたらかなくなるし、みんなろくでなしになってしまう。

こへいはほしいものばかり考えて、はん売機のこと頭がいっぱいになっていた。ところが次の日、はん売機が消えた。お母さんが、こへいに自動はん売機から卒業してほしいと思いながらボタンをおしたら消えてしまったのだ。こへいはお母さんをうらんだ。でも、こへいは気づいた。あのまま何でもはん売機にたよっていたら、一人じゃ何もできないダメな大人になっていただろう、と。ぼくもその通りだと思った。楽で楽しいばかりの毎日なんてないと思う。色いろと問題は起こるし、いやなことや苦しいこと、悲しいこともある。でも、つらいことにも立ち向かっていける、のりこえていける強い大人になりたいと思う。

(図書名『まほうのじどうはんばいき』)

〈講評〉

この文章は、あらすじのじゅんじよにそって、主人公の行動のポイントとなるところに、自分の感想を織り交ぜて書かれています。

また、一文が短く分かりやすく、切れ味のよい文章の書き方になっています。きつと読み返しながらか、文章を練り上げたのでしょう。

まほうの自動販売機からお助けアイテムが出てきたら、今までできなかったことがすいすいできて便利ですね。夢のような自動販売機めぐり、楽しいことばかりではないことにも主人公と一緒に気づいていくところに、この感想文の組み立てのうまさがあります。

五年 最優秀賞

とどけ！メッセーシ

滝沢市立鶴飼小学校 五年

赤坂祐生

もしほくがえんぎがうまくいったら、げきの主役をやっていたらうか、そう思いながらこの本を読み始めた。

この本の主人公の立樹は、あまり期待していなかった学校の観げき会で、プロのげきを見てすごく感動した。ほくも、学校でプロの太このえんぎを真近で見て、心ぞうにひびく音や気はくと信念をまとったバチさばきに圧とうされたことがあった。立樹も、同じ事を感じたのではないだろうか。

立樹の学校では、六年生になるとお別れ会がある。この前見たげきに感動した立樹達は、小学校最後のクラスの思い出にしようとげきをすることにした。しかし、みんなで作るげきは思い通りにはいかなかった。今あるげきをするのか、それとも自分達で考えたげきをするのか？みんな、最初は言い出した立樹に任せきっていた。立樹は任せるといつてめんどうくさい事から逃げているみんなの態度になやまされていた。そして、何度も里夏と智也と話し合っていた。ほくは、それでは最高のげきは作れないと思った。なぜなら、げきはひとりしばいじゃないかぎりみんなで作るものだと思うからだ。ひとり欠けても最高のげきは作れない。ほくの学校でも毎年秋に、『うかいっ子げき場』がある。ほくはいつも主役はやらない。うまくえんじられないからだ。主役目立つ失敗した時はじをかく、それは絶対にいやだ。それが本音だ。だから今まで、ずっとわき役だった。まるでロボットのように作られた動きと少しのセリフを言うだけだった。

しかし、この本を読んでえんぎについて気づかされたことがある。まず、役の気持ちを考え理解することの大切さだ。姉一人などの人名ではない役の人にか空の名前を付ける事で、練習の時に役の気持ちに近づくことができる。たつた一言のセリフでも声の高さや動きが変わるという事だ。次に、げきは主役もわき役もうら方もいなりと成り立たないという事だ。つまり、主役になる事だけがげきを成功させるための協力とは言えない。そして最も大事な事は、『伝えたいメッセーシをとどける事』だ。ほくは、今までそんな事を一度も考えた事がなかった。

最後の場面で、前に立樹達が観げき会のと感想を伝えるために家庭科室へ行ったように、五年生が立樹達に会いに来る場面がある。ほくは、げき団六年二組が伝えたかった事がしっかりと伝わったんだと思った。一人一人が自分の役わりに一生けん命に取り組んで、げきが出来る上がり、えんじる事で観客にメッセーシを送る。げきが成功したかどうかは、観客に伝えたいメッセーシがとどいたかどうかで決まる。

ほくは、今年の『うかいっ子げき場』で、『げき団五年生』のメッセーシを観客にとどけたい。自分達のげきで観客を感動させたい。

(図書名「劇団6年2組」)

〈講評〉

祐生さんの文には芯の強さを感じます。プロの太鼓の演奏に圧倒された経験、自分の考えが裏打ちされている文で表現されています。「げきはひとりしばいじゃないかぎりみんなで作る」とか「主役はうまくえんじられない」本音が書けるところが実にいい。

「たつた一言のセリフでも声の高さや動きがかわる」「伝えたいメッセーシをとどけること」主張があるところが魅力的です。

六年 最優秀賞

晴れた朝を迎えるために

宮古市立田老第三小学校

六年

はたけ やま
畠山 芽依

他愛ない出来事やささいなウソ、そしてそこから生まれる大きな言動、それらがいくつも重なり合って、奇跡としかいいようのない結果が待っている。そんな物語がページを開くとどんどん展開していき、私もその中に引き込まれていった。

全ての物語に、私と同じくらいの女の子が出てくる。それだけに、三人の主人公それぞれに共感できる場面がたくさんあった。例えば、つい先日までは何とも思っていなかったことなのに、今になって妙にイライラしてみたり、反対に嬉しかったりすること。これまであまり命というのを気にもかけてこなかったのに、それがやけにまぶしく感じたり、大切だと分かるからこそ、それがわずらわしく感じてみたり。主人公たちが見せるその姿や心のありようは、私から見たら「もつと素直に言えばいいのに」なんて思うけど、ちょっと考えたら自分も多分、その主人公たちと似たような状態になったとしたら、恥ずかしさや照れが前を行ってしまい結局主人公たちと同じ行動をするんだろうなと思った。

もしかしたら、これって私たちぐらいの年代の「女子あるある」なのかもしれない。私も小学四年生ぐらいまでなら、学校でいやなことがあったとしても、その思いをずっと引きずることはあまりなかった。たいがい、一晩寝れば、すっきりしているといった感じだった。でも、今、六年生になってみて、自分や相手のちょっとした言動が気になり、気持ちやたらに重くなってしまうことがある。これがきつと、この本の題名の「雨の夜」の部分なのかなと思う。そ

ういう意味で考えると、幼かったころの私は、毎日「晴れた朝」だったと言えるかもしれない。

じゃあ「雨の夜」は必要なのかな。私にとつての雨の夜は、自分について又は相手についてじっくり考える時間となる。もちろん、その時間は決して楽しいものではない。雨っていうぐらいだから、涙が出ることもある。でも、それがあるからこそ、次に同じような場面にそうぐうしたとき、前よりはうまく切り抜けられる自分がいると思う。

雨降って地固まる——そんなことわざがあるように、私たちは人としても女性としてもまだまだ未熟。だからこそ、雨の一つや二つ、いやいやもつとたくさん雨を経験しなければ、本当の意味での「晴れた朝」が来ないと思う。私もこれから先、どんなことで雨の夜が訪れるかは分からない。由依のように同性の友達の一言で、好きだと思う相手に爆発してしまうことがあるかもしれない。それでも自分がしたことだから、自分でいいと思うよう後始末はしっかりできるようにしたい。当然のことながら、三人の主人公たちが教えてくれたように、自分を囲む人たちと私、みんなに「晴れた朝」が来るよう私なりの努力をしていきたい。

(図書名「晴れた朝それとも雨の夜」)

〈講評〉

書き出しが見事です。書き慣れた大人の文章を読んでいるような心地よい滑り出しでした。

登場人物が同年代の女の子だけに共感するものが多かったのでしょうか。

「つい先日までは何とも思っていなかったことなのに、今になって妙にイライラしてみたり、反対に嬉しかったりすること……やけにまぶしく感じたり、……」

「もしかしら、……「女子あるある。」なのかもしれない。」あなたの文章を読んでいると読書の力って素晴らしいと思ってしまう。筆力に舌を巻きました。

岩手県小学校長会賞（低学年）

あったかハートのカステラやさん

盛岡市立桜城小学校 二年

うすぎ りん

この本のとうじょう人ぶつは、みんなあったかハートのもちぬしだなあとわたしはおもいました。

「あったかハート」とは、さくらぎ小学校のあいことばで、人がうれしくなることばやこうとうです。こうちよう先生は、あったかハートの人を見つけると、くびからさげたハートを見せてくれます。わたしは、入学してから四回見せてもらいました。

この本ではまず、ナナのおとうさんです。けがをしたイタチのハナママをたすけたからです。たすけなかったらイタチの子どもたちも元気にうまれていなかったとおもいます。

つぎにナナです。にゅういんしたおとうさんや町の人のためにカステラをつくらうとしたからです。わたしなら、子どもにはむりだとおもってしまうので、ナナはすごいなあとおもいます。

そして、一ばんのあったかハートは、イタチのおや子です。たすけてもらったおれいにカステラにばけて、二回もたべられたからです。さいしよにしっぱをたべられていた

かったはずなのにもう一どばけて耳もたべられました。それでも「まだまだ、まえあしやおなかやうしろあしだって、のこってますからね。」と言って、もつとたべられようとしたので、じぶんより人のほうが大切なんだなあとおもいました。

けつきよくは、ナナとイタチのおやこできよう力してつくることにしたのであんしんしました。それに、一口しかたべられなかったおきやくさんには、おとうさんのつくったカステラをプレゼントできたのでよかったです。

この本を読んで、これからももつともつとあったかハートをふやしたいとおもったし、いえでおかあさんといっしよにカステラをつくってみたいとおもいました。

（図書名「おかのうえのカステラやさん」）

〈講評〉

輪さんの学校の合言葉「あったかハート」と、登場人物のそれぞれの優しさを重ねて読んでいくところがすばらしいと思いました。登場人物の心を考えながら読み進める読み方は、読書の楽しさをさらに広げてくれます。みんなの「あったかハート」で出来上がったカステラが、美味しくないはずはありませんね。輪さんも、ナナたちに負けない美味しいカステラをお母さんと作ってみてください。

つなみてんでんこの教え

大船渡市立日頃市小学校

三年

近江由楽

この本は東日本大しんさいで大つなみからにげたかま石小学校のお話です。このお話をえらんだ理ゆうは、まだわたしは小さかったころにおきたつなみのことを知ったことと、「つなみてんでんこ」とは、どういう意味なのだろうとぎもんに思ったからです。

心にのこった場面は二つあります。

一つ目は家々をこわし、車を流し、人をのみこんでいった大つなみの様子です。つなみは本当におそろしいと思いました。

二つ目は、かま石小学校三年生のすがわらゆうみさんのお話です。ゆうみさんは友だちの家で遊んでいた時、とつぜん大きなゆれを感じ、つなみにあいました。ゆうみさんたちはひなん道路まで全力で坂道をかけ上がりました。ひなん道路に着いた時、会えると思っていたお母さんがいなかったで、「しんでしまったんだ。」そう思うと、しぜんとなみだが落ちましたという場面が心にのこっています。もし自分の家族だったらと考えるとかなしくて言葉が出ません。でも、よく朝、しんだと思っていたお母さんと会えて本当によかったと思いました。

かま石小学校の子どもたちは日ごろのひなんくんれんの時の教え「つなみてんでんこ」を守って全校じどう百八十四人がたすかったことを知って安心しました。「つなみてんでんこ」の「てんでんこ」は「それぞれに、べつべつに」という意味です。「つなみてんでんこ」とは、つなみが来たら人のことは気にせず自分のことだけを覚えてそれぞれにげなさいという教えます。わたしは、はじめ、自分の

ことだけを覚えてほかの人のことを考えないのはよくないのではないかと思いました。でもそうではありませんでした。その本当の意味をぼうさい教育を研ぎゅうしているかたださんが教えてくれました。自分がたすければほかの人のいのちもすくうことができるということ。子どもたちが、まっさきにげ出すところを見てそれに続く人がいること。その人たちがたすければ、さらに多くのいのちもたすけることができるということです。「つなみてんでんこ」とは、自分の行動を見せることでほかの人のいのちをすくうことができる教えだと分かりました。

この本を読んで大きな地しんが起きたりつなみの放送があったりした時は「つなみてんでんこ」の教えをまもり、すぐに安全な所にひなんします。まわりの人にも「つなみが来るよ、早くにげて」と声をかけたいです。そして多くのいのちをまもらたいです。

(図書名「ぼくらの津波でんでんこ」)

〈講評〉

「つなみてんでんこ」の題名にさそわれて読みはじめた本でしたが、読み進めていく中でたくさん気づいたことがあり、要点をまとめて書くことができていると思います。

心にのこった場面を、特に二つ取り上げてその理由もきちんとのべていることに感心しました。

この本を読むことによって、安全に対する心が強くなったことが伝わります。そして、「まわりの人にも声をかけたい」という表現からは、行動に移そうという強い気持ちを感じられます。

ありがとう

大船渡市立日頃市小学校

六年

新沼 瑠衣

奇跡の出会いで、ケムオもクマちゃんと同じように幸せを手に入れたのかなと思います。

ケムオとは私が飼っていた犬のことで、この物語に出てくるクマちゃんと同じ捨て犬でした。クマちゃんは、大飯食いで流行りの犬じゃないからという理由で山おくに捨てられてしまいました。「どれだけ心細かっただろう」「どれだけ不安だっただろう」そう考えると胸が痛くなりました。やっとの思いで街まで来たクマちゃんは、見つかるまで保健所で殺されてしまうと分かっていたので、公園の植え込みの中でじっとしていました。そんなクマちゃんを見つけた里穂ちゃんが心配して、水やご飯を持ってきてくれます。これが、クマちゃんと里穂ちゃんの出会いです。クマちゃんは久しぶりの水がおいしくてごくごく飲みました。里穂ちゃんは喜び、クマちゃんも里穂ちゃんの優しさがうれしくて、うれしくて胸がいっぱいになります。でも、その後、ゆうかい犯におそわれた里穂ちゃんを助けるために犯人に跳びついたクマちゃんは、悪い犬だと誤解されて、保健所に連れて行かれてしまいます。「死ぬの、怖いな。痛いのかな。苦しいのかな。」と考えながらおりから出されると、クマちゃんの前には、里穂ちゃんが立っていました。クマちゃんの新しい飼い主として迎えに来てくれたのです。

クマちゃんと同じ捨て犬だったケムオ、ケムオとの出会いは、偶然見ていた保健所のホームページでした。以前飼っていた犬にそっくりだったケムオ。このまま引きとり手がいないと殺処分されてし

まうと知り、いてもたってもいられずケムオを迎えに行きました。食べることが大好きで、一緒に家で飼っていた猫にえさを食べられそうになると容器をくわえて別の場所を持っていくおちゃめなところもありました。優しい目をしているケムオは、私の心も優しくしてくれました。でも、ケムオとの楽しい日々は長くは続きませんでした。ケムオはえさをはくようになり、病院へ連れて行くと、重い心臓病にかかっていることが分かりました。毎日薬を飲ませ、一生けん命看病していましたが、ケムオは、家族になって一年もたたないうちに天国に旅立ってしまいました。ケムオの最期は壮絶でした。歩けないケムオ、食べられないケムオ。そんなケムオを見ているのがつらくて、こんなに苦しむのなら保健所で殺処分された方が楽だったのではないだろうか。ずっと私の心の中はもやもやしていました。でも、里穂ちゃんと出会い、幸せを手に入れたクマちゃんのことを知って考えが変わりました。ケムオも私たち家族と出会ったと考えられるようになりました。

「瑠衣と出会えて幸せだったよ。」

とケムオが言ってくれているように感じます。ケムオ、私もケムオと出会えて幸せだったよ。

（図書名『天国の犬ものがたり』）

〈講評〉

主人公のクマちゃんと瑠衣さんが飼っていたケムオのことを比べながら感想文を書いたのが成功したと思います。どちらも捨て犬だったことです。「こんなに苦しむのなら保健所で殺処分された方が楽だったのではないだろうか。」自問自答するところが光ります。

結びの文も見事でした。

たくさん読書経験からでしょう、表現力が豊かで優しさがひしひしと伝わってくる素敵な感想文でした。

すてきな気持ち

一関市立南小学校 二年

ささ木 ことか

ルルとララは、おかしをつくるのが大すきな女の子です。わたしも、おかあさんといっしょにおかしをつくるのがすきなで、どんなパンケーキがで上がるのか、わくわくしながらこの本を読みました。

ルルとララは、ハワイを思い出して元気がなくなったねずみのおじいちゃんのために、パンケーキをつくります。フルーツをまぜたり、トッピングをしたりして、おじいちゃんによるこんでもらえるように、いろいろくふうするのがすごかったです。

おじいちゃんが、

「ハワイのかおりがあるといいな。」

と言った時には、ココナッツのソースをすぐにつくってしまふんです。わたしだったら、教えてもらったことしかできないし、「もつとよるこんでもらいたい」という二人の気もちがつたわってきて、わたしもうれしくなりました。この気もちが、「アロハな気もち」だということを、ねずみのおじいちゃんが教えてくれました。

「アロハ」は、あい手の気もちになったり、いっしょに

よるこんだりして、ありがとう、大すき、なかよしになろうとつたえる、すてきなことばです。

わたしは、いもうとといっしょにあそぶのが大すきです。いつも楽しくて、二人ともにここにいます。わたしたちを見ているおかあさんも、ここにこしています。みんなアロハな気もちになっていたんだなあと、ここがほかほかしてきました。

友だちとあそんでいる時やピアノのレッスンをしている時など、わたしにはアロハな気もちになる時がたくさんあります。そう考えたら、もつともつとたのしいまい日になりそうで、ルルとララに出あえて本とうによかったです。

（図書名「ルルとララのアロハ！パンケーキ」）

〈講評〉

まず、なぜこの本を読もうと思ったのかを分かりやすく書いている書き出しに感心しました。また、あらすじを短い文で書き表しているところもすばらしいと思いました。さらに、ルルとララと自分を比べながら読んでいくところからは、琴珂さんが本の世界に入り込んでいることがよく分かりました。アロハな気持ちを自分の生活の中から探している琴珂さん。これからアロハな気持ちを大切に、楽しい毎日を送ってください。

「ぼくらの津波でんでんこ」を読んで

盛岡白百合学園小学校 四年

福士 央華

東日本大しん災があった三月十一日、私がすんでいる盛岡市は内陸地方なので津波はありません。同じ岩手県のじしんでも、かまいし市と盛岡市ではちがいます。

でもかよっていた保育園を大きく長いゆれがおそい、電気が消え、雪がふる中、先生と園でいにひなんをしました。

お母さんがむかえにくるまでとても不安だった事をこの本を読んだ思い出しました。

私がこの本を読んで一番おどろいたのは、『かまいし小学校の児童一八四人、全員の無事をかくにんしました。』と書いてあった事です。このじしんで沿岸地方は津波により多くのぎせい者がでたとききました。

津波が来た時のえいぞうをテレビなどを見ると、真っ黒い海水が大量におしよせてきたかと思うと、今度はものすごいきおいでひいていきます。バキバキと音がするえいぞうもあり、とてもこわいです。

でもそのこわい気持ちをはまんしてにげたかまいし小学校のみなさんはとても勇気がある人達だと思います。

私のおじいちゃんとおばあちゃんは山田町というところに住んでいます。

津波で家は流されました。おばあちゃんは自分の家が津波で流されるのを山の上からどうする事も出来ずに見ていたそうです。

おばあちゃんは仕事で海岸にいたおじいちゃんをまたずにすぐににげたそうです。

おじいちゃんも必死に走って何とか山の上に向けて助かりました。おばあちゃんがおじいちゃんをまっていたら、おばあちゃんは津波に流されていたかもしれないと言っていました。

津波がきたら『でんでんこ（別々）ににげる』と昔からたくさんの方が教えられてきて、その昔からの教えが今回の津波でもたくさん命をすくいました。

私はどうしようと考えました。

お母さんを家でまてて、もしこなかったら自分が死んでしまうし、でも一人でけてお母さんもお父さんもおばあちゃんもこなかったら一人でどうしていいかわからないし、考えただけで不安でいっぱいになりました。

かまいし小学校のみなさんの行動はそうかんたんにできることではなく、本当にすごいことだと思います。

じしんはまた必ずおきます。

でもいつおきるかわかりません。じしんや火事、ふしんしゃなど、どんなくんれんでも、本番のようないきもちで気をひきしめて取り組み、くんれんをくり返すことです。しっかりと体におほえさせることが大切です。

災害がおきた時に自分の命を守るのは自分じしんなのです。

（図書名『ぼくらの津波でんでんこ』）

〈講評〉

東日本大しん災について書かれたこの本は、央華さんのような小学生が、たくさん出てきましたね。当時の様子を丁寧に読み、釜石の小学生がどのようにして津波からにげたのか、自分のことのようにして考えることができました。

央華さんは、昔からの教えが小学生の大切な命を守ってきたということにおどろきながら、これから自分にできることを、この感想文でせんげんしています。岩手に生きる小学生として、これからの岩手をつくる一人として、この本のことを大切に伝えてください。

十二星座のひみつ

宮古市立田老第三小学校

五年

畠山 大輝

四年生の理科で習った星座。オリオン座とカシオペア座。この学習は秋から冬にかけてだったので、この二つが一番、見つけやすいらしい。でも、よく誕生日といっしょに聞かれるのが

「君って何座。」

っていう質問。それって占いだけの話かと思っていたら、そうじゃないってことが分かった。空の星って、あんなにたくさんあるけどそれぞれ目立つ星をつないで、星座としてそこにあるというのだ。本のうら表紙を見て、おどろいた。空中、星座だらけじゃないか。しかも、占いで聞いたことのある名前だけじゃない。おおかみ座とかやまねこ座、うみへび座だのなんもり座。笑っちゃうのは、かみのけ座。そんなのもあったんだ。とにかく、年中、夜空は何かの星座で埋め尽くされていることにびっくりした。

ほかにもびっくりしたのは、占いの十二星座には、全部に物語があるということ。特にほくの心に残ったのは、ヘラクレスの話。名前ぐらいは知っていたし、英雄っていうことも何となく知っていた。でも、これほどまでに強い人だとは思わなかった。怪物をいくつも倒している。頭を九つも持つヒドラや、ヒドラを援護する大がに、そして人食いライオン。全てヘラクレスが退治している。特にほくの心に残ったのは人食いライオンとの闘いだ。ヘラクレスが矢を射ても、矢ははじき返され、こん棒で力いっぱいなられても、こん棒の方が折れたというのだ。まるでそのひふは鋼鉄のようだという。結局はヘラクレスが三日三晩ライオンの首を絞め続けて退治し

た。いくら神々の王ゼウスの命令とはいえども、すさまじい戦いだった。思った。

でも、なぜ英雄に退治されたはずの怪物達が星座になるのか不思議に思う。それはしつと深いヘーラという神の仕業。ヘラクレス相手に敗れたものの、ゆうかんに戦ったことをたたえて星座にしてあげたというのだ。

たんじゅんな物語として楽しむこともできるギリシャ神話だが、季節が四つに分かれていることや、季節によって見える星座がちがうことの訳、またギリシャ地方の火山が時折噴火することの訳なども、うまくギリシャの神々が関わっているようストーリー展開されていることもおもしろさの一つだと思った。

そろそろ秋。空を見上げると「秋の大四辺形」が南に見え、みずがめ座、やぎ座が並んで西に続く。東の方にはうお座が見える。また、冬になれば、オリオン座を南に、こいぬ座、おおいぬ座とともに「冬の三角」を描く。西におうし座、東にふたご座が見えるようになるだろう。こんな豊かな空を作ってくれたのは、五千年以上も前にシュメール人達が星々をつないで意味づけしてくれたおかげだ。まだ知らない星座は多くありそうだ。今日も夜空を見上げてみたいと思う。

（図書名「12星座とギリシャ神話の絵本」）

〈講評〉

本の裏表紙を見て驚き、「かみのけざ」に笑っちゃう、ごく普通の五年生だと思えます。

しかし、どうしてどうして星座にはみんな物語りがあるんだよね。大輝さんの感想文は、ヘラクレスに惹かれたことを中心に書かれているところが男の子らしく思いました。

「たんじゅんな物語として楽しむこともできるギリシャ神話……季節によって見える星座がちがうことの訳……」星座の秘密に迫っていく様子が楽しげに見えてきます。

つよいきもちでがんばる

大船渡市立日頃市小学校 一年

やました はるく

ほくが、このほんをよもうとおもったわけは、はんばいきがとでもふしぎだなおもったからです。このはんばいきは、にじいろでうえのほうに「あなたのみかた」とかいてあります。ぼたんがひとつで、したにおおきなうけとりぐちがひとつついているだけです。

おとこのこは、そのはんばいきがきになってしかたがなかったので、ゆうきをだしておしてみました。すると、びろりろりんとおとがなって、かぶとむしがでてきました。つぎのひもおしてみたらさんすうどりのがでてきました。おとこのこはふしぎだなおもっておかあさんにきいてみたら、

「いま、ひつようなものがでてくるんじゃないの。」

とおしえてくれました。おとこのこはそれをきいて、すつきりしました。そのあといろいろなものをだしてもらって、おとこのこははんばいきがだいすきになりました。

ほくがこころにのこったところは、さいごににじがでてきて、おとこのこがじどうはんばいきのことをおもいだしたところでした。おかあさんがぼたんをおして、はんばいき

がとつぜんいなくなってしまうてかなしくてくやしいきもちになったけれど、さいごにははんばいきにありがとうといっているところがいいなおもいました。

このほんをよんでほくは、はんばいきがなくても、がんばろうとおとこのこのきもちがすごいとおもいました。はんばいきにたよらないで、がんばろうとおとこのこは、とてもつよいこです。ほくもこんなはんばいきがあったら、ぼたんをおすとおもいます。だけど、このおとこのこみたくに、はんばいきがなくてもがんばる、つよいこになりたいです。

（図書名「まほうのじどうはんばいき」）

〈講評〉

前半では、順を追ってあらすじを分かりやすく書くことができました。また、心に残ったところを行を変えて書き、強調しているところにも感心しました。さらに、自動販売機がなくてもがんばろうとする男の子の強さに気づき、自分も男の子のように強い子になりたいと思えたことは、とてもすきなことだと思います。本は、いろいろな力をわたしたちに与えてくれます。これからもたくさん本の親しみ、色々な力をもらってください。

森を大切にすることは

宮古市立山口小学校 三年

小笠原 みらい

「森を大切にしよう。」

「ゴミをへらしましょう。」

この二つのことは、テレビや新聞などでよく耳にする言葉です。何度か耳にすること、とても大切なことであるし、むかしから守られていないからだと思います。人間は、どうして自然を守ろうとしないのか、どうしてゴミをへらせられないのか、私は疑問に思います。

この物語は、森をけずってゴミすて場にしようとする人間たちと、自分たちの住む森を守ろうとするケモノたちとの話です。何匹ものケモノが命を落とす場面を読むたびに、なぜケモノたちだけが命を落とすのか、よく分かりません。ケモノたちはふつうに生活しているだけなのに――。ゴミすて場にあること以上に、ケモノをころすことはぜったいにしてはいけないと思います。

ゴミすて場として森がけずられるのは仕方ないことですが、ゴミをへらせなければ森はへるはずで、それを分かっているのにゴミをへらせられないのは、森で生きているケモノたちのことまで考えていないから、ゴミをへらそうとする気持ちの弱さからだと思います。国語の学習で知った「リサイクルマーク」を見たら、森のことも考えるようにしていきたいです。

ゴミをへらすために、学校で取り組んでいきたいことを考えました。一つ目は、学校で使った紙をよく見て、すぐにすてずに使えるところはないかがことです。二つ目は、生ゴミをへらすために

給食をたくさん食べることです。わたしの学級では、一生けんめい食べている人はたくさんいますが、毎日さん食が出てしまいます。あと一口ずつでいいから食べるようにしたいです。そのために「さん食りようチェックの日」を週に一回つくりたいと思います。さん食の入ったふくろの重さをはかり、次の週はその重さが増えるように学級みんなで取り組みたいです。

わたしの住所は「黒森」といい、住たくがたくさんあり、そばには森や川もあり、とても住みやすいと感じています。もしかしたら「もりもりさま」に守られているのかもしれない。タヌキたちが「この木は、オラたちの宝物だすけ」「もりもりさまのばちがあたるぞな。」と言った言葉は、黒森に住む自分たちにもあてはまるかもしれません。わたしから「黒森のもりもりさま」におねがいがあります。黒森のしぜんがこわされゴミすて場にならないように、人間たちでできるだけゴミをへらしリサイクルするように言ってください。また、ケモノたちの「大切な森をこわさないで」という心の声を、人間たちにとどけてください。

人間とケモノとの関係をもっとふかめて、黒森地いきもふくめた宮古市が、いつまでもきれいであり続けてほしいです。

（図書名「もりもりさまの森」）

〈講評〉

みらいさんは、自然や人間の生活の仕方について、疑問をもって、この本を読んでいます。そして、そのことから新聞などのニュースや学校、地いきのことを、じっくりと見わたし、考え続けています。

ゴミ問題にかかわることを、一つ一つの段落で事実をあげながら、しっかりと書いていることに感心します。みらいさんの、地いきに対する深い観察と今後への期待感が、感想文全体から伝わります。

達成感を味わうために

宮古市立崎山小学校 六年

村 上 依 咲

「みんなで芝居をやろう。」
と提案されたら、

「そんなの無理だよ。学習発表会でさえ大変なのに、自分達で何から何まで決めてやるなんて考えられない。」
と言ってしまいそうです。

ところが、立樹達六年二組の仲間は、一つ一つ話し合いを重ねて、すばらしい思い出を作ったのです。

でも、それは簡単なことではありませんでした。まずは、何を演ずるのから右往左往しています。そんな彼達には、プロは、「何を伝えたいかだ。メッセージが伝わらなければ、人を感動させることはできない。」とアドバイスをしています。

立樹達は迷います。提案さえできないのだから、意見なんて出てくるはずがありません。シーンとした時間が流れるだけです。

そんな光景って、私のクラスでもよくあるなと思いました。そんな時は、先生の出番です。

でも、立樹達は知恵を出し合い、調べたり直接聞きにいったりと、行動を起こしているではありませんか。

台本ができ、役が決まり、練習が始まると私までその中の一人になった気分、わくわく、どきどきでした。

人の前で話したり、大きな、はりのある声を出すなんて、ぜったい無理な私です。大道具係ならやれそうな気がしていました。

けれども、二組のみんなが登場人物の気持ちをいっぱい考えて、

どんどんおもしろくなっていくのを見ていたら、私も考えてみたくなりました。

すると不思議。人の気持ちを考えると、今まで見えてなかったことが見えてくるんだと気が付きました。

与えられた事を、何も考えずに受け入れる事が多かった私です。それでさえ、すごい努力が必要でした。

でも、自分の力で、心で、必死に考え、それを伝えられたら、二組の仲間達のような達成感を味わうことができるのかもしれない。

シンデレラの芝居を通して、お互いの良い所や、今まで知らなかった面を発見したりとクラスが大きくひとつにまとまっていったようです。心がつながっていくのがよく分かりました。

だから、下級生達の心にも思いが伝わり、お手本にしたいとまで言われたのではないのでしょうか。

何か一つの事に向かって、みんなの力を合わせるってすごくカッコいいなあと思いました。大変なこともいっぱいありそうだけど、一つ一つクリアしていき、ゴールを目ざす楽しさを味わってみたいと思います。

そして、達成感を味わった後の新しい自分と出会うのが楽しみになってきました。

（図書名『劇団6年2組』）

〈講 評〉

うーん まいった まいった 感心しました。
ベリーグッドです。

「すると不思議。人の気持ちを考えると、今まで見えていなかったことがみえてくるんだ」

「自分の力で、心で、必死に考え、それを伝えられたら……」
達成感が力強く伝わってくる味わい深い作品でした。

審査を終えて

第六十七回夏休み良書推薦運動読書感想文コンクールは、県内の小学校から百十六名（低学年五十一名・中学年十九名・高学年四十六名）の応募がありました。昨年夏と比べて若干減少したのは残念でした。

夏休みが終わり二学期が始まり、大変お忙しいところ、ご指導された先生方に感謝いたします。ありがとうございます。

我々審査員は、一人一人の作品を丁寧に読み、内容について話し合いました。話題になったことを低・中・高学年に分けてまとめました。

〈低学年〉

二年生は一年生の二倍以上の応募がありました。

本の選択の種類や広がりが見られました。

その本の世界にひたり、登場人物になりきったり、自分と比較してみたり、十分に味わうことが大事です。

入賞作品の講評を読んで、今後の参考にしてほしいです。

〈中学年〉

本を読み、自分の生活に生かそうとする気持ちが伝わってくる作品もあり、大変素晴らしいことです。また、その本を何度も読み、自分を見つめる姿勢は大切なことです。

本を読む「切っ掛け・動機」を長々と書いてあるものもありましたが、これは必ず書かなければならないものではありません。

ありません。

〈高学年〉

原稿用紙の書き方を守っていない作品がありました。題名を一行目に、一マスあけて書いてあるものがありました。応募規定で三枚以内なのに二枚や二枚半などありました。もったいないです。ぜひ、三枚いっぱい感想を書いて応募してほしいです。

形式段落だけで意味段落がなく、とにかく三枚を埋めようと思われる作品もありました。

〈全体に関わること〉

- ① 応募規定を守っているか、確認してほしい。
- ② 書いた読み直し、誤字や脱字はないか推敲をすること。最後に清書して提出します。
- ③ 薄くて読みにくい文章もありました。芯の硬い鉛筆ではなく、柔らかいもので書きましょう。筆圧も関係します。はつきりした字で、丁寧に書いてほしいです。
- ④ 癖字も目立ちました。特に、濁音です。濁点の正しい位置に書くよう意識して直す習慣が必要です。
- ⑤ 指導の行き過ぎ、指導なし（児童の書きっぱなし）の作品も見られました。

審査員 齋藤 英明

たくさんのおうぼ
 たくさんのご応募、ありがとう。
 次も、お友だちをさそってトライしてね。



次回予告

平成29年度冬休み良書推薦運動 第68回読書感想文コンクール募集要項

- 1 主催 岩手県良書推進協議会
- 2 協賛 岩手県学校生活協同組合
- 3 後援 岩手県小学校長会 岩手県学校図書館協議会
 一般社団法人 岩手県PTA連合会
- 4 対象図書 平成29年度「冬休み良書推薦運動」
学年・学団対象図書・共通図書（10月下旬案内開始予定）
 ※上記以外の図書、学団（低・中・高）ちがいの場合は、審査の対象となりません。
- 5 字数 1・2年生は400字詰め原稿用紙2枚以内
 3～6年生は400字詰め原稿用紙3枚以内
 （枚数厳守・題・学校名・学年・氏名を含む）
 ※1行目に題名、2行目に学校名・学年・氏名、3行目から本文
 鉛筆の場合は、B以上の濃さのもので書いて下さい。
 ※欄外に課題図書名を記入のこと
- 6 応募作品 一人1点
 応募作品は、オリジナルで自筆、未発表の物に限ります。
 （類似コンクールとの二重応募は認めません）
 応募作品は、理由を問わず返却しません。
 応募作品の著作権、版権は主催者に帰属します。
 応募された方の氏名・学校名・学年・感想文作品・入賞結果・表彰式の
 様子は、主催者および岩手県学校生活協同組合のホームページ・刊行物・
 取材報道等で公表することがあります。予めご了承下さい。
- 7 応募締切日 平成30年1月26日（金）当日消印有効
- 8 応募作品送り先 〒020-0691 岩手県滝沢市土沢220-5
 岩手県学校生活協同組合 企画課 学用品内
 読書感想文コンクール係
 TEL 019(687)2246 FAX 019(687)2240
- 9 賞 最優秀賞・岩手県小学校長会長賞
 岩手県学校図書館協議会長賞
 岩手県PTA連合会長賞
 優秀賞・入選・佳作・努力賞・
 学校賞・学級賞

